

薬草園かわらばん

皆さ～んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2018年
4月23日
第39号



ホオノキ (モクレン科)

今、園内薬木区西で、若葉が花の咲いたように美しく展葉しています。5月頃に咲く芳香のある大きな花は大きな葉の上に咲き見つけにくいです。根や枝の樹皮を生薬名、厚朴(コウボク)と云い、漢方医学で言うところの「気」の巡りをよくする目的で、半夏厚朴湯や平胃散などの漢方薬に配合されます。また、日本の民間薬としても厚朴は使用され、健胃、整腸を目的とする御岳百草丸や太田胃散などにも配合されています。また、木の材質が柔らかいので、版木、マッチの軸木、鉛筆材、下駄の歯などにも用いていました。大きな葉は食器がわりに食物を包むのに利用され、今でも朴葉(ホオバ)味噌、朴葉焼き、朴葉飯の風習がある地域があります。

カラタチ (ミカン科)

私の好きな昭和歌謡曲に、♪ 雨の小径に白い仄かなカラタチカラタチカラタチ～の花♪という、島倉千代子の「からたち日記」があり、哀愁を誘います！園内、薬木区西の第三圃場の横で今、白い五弁花の花が見られます。花が咲いた後、全体に白い細かな毛を付けた果実を実らせ、晩秋に良い匂いを放ち黄色に熟します。この植物の漢字名「枳殼(カラタチ)」が、生薬名の「枳殼(キコク)」(=ダイダイの成熟果実)と同じであるため、混同されることがあり、注意が必要です。カラタチの果実は、苦み、酸味が強すぎて、食べられません。

今、こんな草木がたのしめます

待ってまーす！！